

図書館だより

令和3年11月26日号

図書館こぼれ話

来月7日から蔵書点検が始まります。点検中は本を借りることができませんので、気になる本は今のうちに借りておきましょう！冬の長期貸出が始まっていますので、ゆっくりと読んでください。



先日イルミネーション点灯式が行われました。今年も生徒会のみなさんが工夫を凝らした飾りつけで綺麗なイルミネーションが完成しました。色とりどりの光に1日の疲れを癒してもらいながら下校しましょう。

さて、来月11日(土)、12日(日)は県内最大級の図書館イベント「図書館と県民のつどい2021」が開催されます。作家 伊吹有喜さんや絵本作家 鈴木まもるさんの講演会(要予約)の他、様々なイベントが予定されています。今年はオンライン開催なので自宅から気軽に参加してみてください。詳細は公式HPで！

●直木賞候補、本屋大賞3位の実力派！伊吹有喜さんの本を読んでみよう

913.6-イ 『雲を紡ぐ』

伊吹 有喜 || 著 文藝春秋

学校にも家にもいたくない。そんな美緒が見つけた居場所は祖父の家。羊毛から糸を紡ぎ、ホームスパンと呼ばれる布を織り上げている祖父。その仕事に触れ、美緒は羊毛の仕事が好きになっていく。抱え続けた悩みは簡単には解決しないけど、祖父に支えられ、糸を紡ぎながら、美緒はバラバラになってしまった自分の心や母との関係を再び紡ぎ始める。

913.6-イ 『犬がいた季節』

伊吹 有喜 || 著 双葉社

「このままの自分で大丈夫なのだろうか」桜が三回咲く間、高校生たちはたくさんの葛藤を繰り返しながら、友と出会い、誰かを想い、夢を探していく。コーシローは人が放つ様々な心の匂いを嗅ぎながら、いくつもの季節、彼らにそっと寄り添っていく。苦しくも眩しい青春を送る高校生たちと一匹の白い犬の優しい優しい物語。

●気になる新着本

596-テ 『Disneyおうちごはん』 講談社

日常を忘れて楽しめるディズニーリゾート。その魅力はアトラクションやショーだけではありません。パーク内のレストランでいただく料理も魅力のひとつ。その味をおうちでも楽しめる夢のような公式レシピ本です。嬉しいことになると、人気のテリヤキチキンレッグやギョウザドッグのレシピも載っています。

913.6-7 『檸檬先生』

珠川 こおり || 著 講談社
音や人や数が色に見えてしまう共感覚の少年。少年は同じ共感覚を持つ少女と出会い、一人ぼっちではなくなった。檸檬色の瞳をした少女も少年の前ではよく笑った。しかし、物語は不穏な未来のシーンから始まる。なぜふたりにはそんな未来が待つのか。あなたにはこの物語が何色に見えるだろう。

●寒い季節に読みたいあたたまる本

913.6-7 『木曜日にはココアを』

青山 美智子 || 著 宝島社

僕の働くマール・カフェには木曜日になるとココアさんがやってくる。いつもホットココアを頼む彼女にとびきりおいしいココアを捧げるのが僕の使命だ。しかし、ある木曜日店を訪れたココアさんは普段と様子が違っていた…。僕の物語はココア。ある人の物語は卵焼き、またある人の物語はネイル、様々なキーワードが潜んだ12の物語が繋がりながら進んでいく。

913.6-キ 『あたたかい水の出るところ』

木地 雅映子 || 著 光文社

高校生の柚子が愛してやまないもの、それは温泉。家のことや将来のこと、気の重いことは隅に置き、銭湯通いを楽しみながら暮らしていたが、その生活がある人物との出会いをきっかけに変わっていく。のほほんとした物語かと思いきや、複雑な家族関係あり、甘い恋あり、心に残る言葉あり、と想像以上に読み応えのある1冊。

●司書の『今月はこの本を読みました』

数年前、アフタヌーンティーの魅力を知ってしまいました。ティースタンドに乗った綺麗なスイーツとお茶をいただきながら、ゆったりとひとときを過ごす。とても幸せな時間です。そんな時間を体験できる物語と出会いました。913.6-7『最高のアフタヌーンティーの作り方』(古内一絵 中央公論新社)です。この物語はゲストが素敵時間を送れるよう尽くす給仕や調理のスペシャリストたちの視点からアフタヌーンティーの世界が描かれています。そこには華やかなだけでなく、それぞれの苦い思いもあります。それを乗り越えていく姿に心が温まり、甘いものが人を幸せにするのはおいしさだけが理由でないことを教えてもらえました。【今井】